

# まちづくりミーティング開催結果概要

## 開催テーマ 今後の移住・定住施策について

### 参加者

NPO法人キッズバレイ 10名  
桐生市長  
オブザーバー 3名  
傍聴者 1名  
報道機関 2名

日時：令和6年2月16日（金）午後2時57分～午後4時37分

場所：東武桐生本町ビル1階 ココトモ

1 開会

2 あいさつ

3 議題

今後の移住・定住施策について

#### 意見交換のポイント

- 「むすびすむ桐生」の取組について
- 今後の移住・定住施策について 等

4 閉会





(星野代表理事より「むすびすむ桐生」の取組について総括)



(山本理事より「むすびすむ桐生」の取組について総括)



(市長) 本日は開催テーマを「今後の移住・定住施策について」とし、皆様のご意見を伺い、共に考え、新たな取組を創造してまいります。

**意見交換のポイント**

- 「むすびすむ桐生」の取組について
- 今後の移住・定住施策について 等

にさせていただきます。  
まずは、「むすびすむ桐生」について、昨年8月からの取組状況を説明いただきました。



(市長) 次に、皆さんが今年度「むすびすむ桐生」の取組を通じて感じたことについて意見をいただきました。



(桐生市移住コーディネーター) 田中チーフ・岩崎チーフより「むすびすむ桐生」の取組について説明)

**※資料参照**



(意見)

色々な相談者と関わる中で、自分自身ずっと桐生に住んでいたが見えていなかった桐生の魅力を相談者から教えてもらうこともあった。

魅力発信という点では、移住者へインタビューをしているが、個人店におけるこだわりの部分を聞いたり、移住者間でのゆるやかなつながりがあることを知り、自分が知らない桐生にしかないものがあることに強く感じた。

市内での「むすびすむ桐生」の取組は知名度としてまだ低いと感じることがあるため、私たちがまちへ出て実際に肌で桐生の魅力を感じたことを市外へもより、市内の方にも届けることにより、市内の方が自然と市外の方へ魅力を届けていただけると思うので、この部分に取り組んでいきたい。

このような取組により、桐生の魅力を知った方が桐生へ来た際に、一人でも多く桐生を好きになっていただけたら移住者を増やしていきたいと考えている。



ゆるやかに、つながり  
ほどよく、むすばれる

## 桐生の魅力を市内に届け

### 自然と中から外へ魅力発信

(市長)

正にそのとおりで自分が最優先で取り組みたいと考えているのが、子どもたちの観光ガイドの育成であり、まず、来ていただいた方に桐生の良さを知っていただくためには、座学で勉強したり、自分なりの言葉で観光客の方へ説明することが必要となる。そのことにより、自然に桐生を知り、好きになり、愛着を持って、一度外に出たとしても戻ってくることにつながる。

現在、子どもたちに対しては、未来創生塾で養成講座を行っているが、今度は枠を広げ、子ども観光ガイドのスペシャリストを育成することを今後の目標としている。大人の方に対しては、「桐生には

何も無い」という意見も散見されるが、桐生を好きになり、愛着が持てる方をもっと増やせるようにこれからも取り組んでいただければと思う。市としても皆さんが取り組んでほしいと感じていることを伝えていただき、色々話しながら進めていければと思う。

「むすびすむ桐生」という取組をきっかけに色々新しいことが生まれくると思うので、すぐに結果を求めると急ぎ足になり、間を省くと本分を見失うことになってしまふ。そのため、ある程度腰を据えて取り組むことが良いと思うので、じっくりやっていただければと思う。







## 縦割り行政の

## 弊害打破について

(意見)

8月から現場の第一線で取り組み、毎週のように沢山イベントを行ってきたが、そのような取組ができることが嬉しかった。

これまでの桐生の移住施策はどちらかというと待つスタンスであったが、今はイベントを沢山行うことにより、攻めの姿勢で実現できていることが嬉しい。

また、立場的に全国の移住コーディネーターと横のつながりがあるが、「桐生は移住施策に力を入れていらいね」と言われることがあり、外からもそのような見られていることを感じ、来年度も引き続きしっかり取り組んでいきたいと感じている。他の地域の移住コーディネーターの方から「むすびすむ桐生」のような取組をしたいという話をいただくが、そのような方はまずは民間のプレイヤーをつかまえないといけないという話を話しているが、やはり行政内で組織の縦割りを崩して横串を刺していただけたら桐生市の担当者のような存在がいらないと成り立たず、他の地域では中々真似はできない。

来年度も引き続き市と協力して取り組んでいきたい。

(市長)

行政の課題として、縦割りの弊害をいかに無くしていくのが問題であり、市役所には、全庁的な課題に対して、庁内横断的に横串を刺す担当もおり、色々と連携を取れる体制が確立しつつあるため、引き続き組織の在り方も含め、公民連携で取り組んでいきたい。

(意見)

開業を検討してる方や就農したいという方まで移住相談の対応をさせていただいた。皆さん何かしら桐生へ魅力を感じて移住を検討しており、これだけ沢山希望者がいるのかと驚きを感じた。

実際、移住希望者と話してみると田舎に対する感じ方が一般の方とは異なり、自分も移住者であるが、私たちと同じような感覚を持っているため、自分の経験で得たことや地域の魅力として感じるところについて、引き続きコーディネーターとして伝えていきたい。

## 移住希望者と

## 同じ感覚で相談対応



(市長)

特に新里地域は酒米など若い農業の方々が頑張っていただいている地域であるため、関係人口を増やすためにも農業関係者の方々と移住希望者が話をするだけでも元気をもらえるとあるので、そのような橋渡しをしていただきたい。黒保根についても、群馬県のリトリート事業として長期滞在型のモデル地域としてこれから進めていきたいと考えているため、従来の黒保根の良さと同時にリトリートとしての魅力が加わると思うので、その点も連携して行っていければと思う。



## 個別に相談できる機会の創出



(意見)

オンラインで移住希望者と自分たちの生活を話す中で、改めて桐生市の住環境の良さを実感できる場面が多々あった。

問題点としては、実際に移住したいと思った方ともう少し個別に話ができる場があると良い。自分たちが移住を検討しているときは、不安なことを直接話せる場がなかったので、今のようにならなければ良いと思う。

また、新里・黒保根地区は、やはり桐生地区と分かれているイメージがまだあるため、まちなかとの両方の良さを感じられるような伝え方をしていきたい。

## 低コストで活用可能な物件について

(意見)

本町1・2丁目への移住希望者の相談を何件か対応したが、店舗を構えて開業したいと思う方は、少し手直ししてからというところは考えているが、色々なところを改修しなければ開業できないというところまでは考えていない。空き家は沢山あっても、そのままを加えないで使える物件が少なく紹介できるところがないため申し訳なさを感じている。

また、市内・市外とも、本町1・2丁目への出店希望は多いが、最終的に断念することが多い。空き家バンクの成約や空き家見学会での実績もあるが、紹介できるような物件が増えないといけない。空き店舗やすぐ住めるような空き家はあるけれど、人が来てくれないので呼びましようというものであれば話は通じるが、どうしても来てくれないところだけに力が



入ってしまっていて、実際、見学やイベントなどで桐生を面白いと思い、住みたいと思う方は増えるかもしれないが、いざ住む場所を探してみたらないというようなところが特にこの本町1・2丁目ではあるのではないのかと思う。このようなことであると資金力がある方ではないと移住できないということになってしまふ。開業するにも改修に多額の資金を投入すると経営が厳しくなってしまうため、中々物件を勧めることもできない。その点をしっかりとフォローすることが必要であると思う。「むすびすむ桐生」での取組は表面的にはすごく良くできているが、内側の見えないところもフォローし、空き家・空き店舗をどうしたらいいのかをもう少し議論を進めていければと思う。



(市長)

実際に桐生に住んでいる方の話を聞くことが、移住希望者に対しては一番良い方法であると思うため、引き続き桐生の良さを伝えていただければと思う。

(市長)

本町1・2丁目の課題については、個々に様々あるものと考えているので、引き続き意見交換をさせていただく中で検討してまいりたい。

空き家・空き地バンク登録制度の登録物件については、起業希望者等を対象とした物件についても登録を検討してまいりたい。





# 移住者同士が話し合う場の創出

(意見)

古民家が希望するお客様へ物件を紹介しても、水道管を掘り直して改修しなければならぬケースがあったりと、資金面で結局契約に至らないことが多々ある。貸す側、借りる側でどちらの負担で対応するのかという問題があり、そのままにしておかれないと、思ってもお金がかけてくれず、希望を持ってきたとしても、その期待に答えられないことになってしまふので、何か解決策があったら良いと思う。

空き家については、相続が終わっておらず、関係者からまだ空き家ではないといわれてしまふとそれ以上話が進まないケースもある。

自分はこれまでお客様については単に部屋を借りに来る、家を買ってくるというだけで、移住してくるといふ感覚はなく、どこから来たのかについては、あまり意識していなかった。例えば学校はどこにあるのか、開業に関する補助金は何があるのかなどの情報収集をする際、個人が市役所に行ってもどこに何課があるのか分からず、不動産業者が市の窓口と同席することもあるが、それも限界があるため、今回、「むすびすむ桐生」が始まったことにより、市の移住担当から庁内の各分野の担当へつないでいただいております。移住希望者からも市役所のどの課へ行っても話が通じて、迎え入れてもらえている感じがするといふ話も聞くため、その点が良かったと感じています。

また、移住者に桐生の良さについて聞くと、皆さん桐生は人が良いと話している。そこで、人が良いという点については、結局会って話してみないと分からないため、移住者や移住コーディネーターが話をする機会を少しでも増やそうと考えており、その回数を重ねる度に知り合いができ、桐生に来る機会が増えるのではないかと思います。



## 自分の強みを生かした移住相談

(意見)

自分自身Uターンをして感じることは、開業希望や明確な理由があり、移住してくる方は良いが、そうでない方の移住はハードルが高いと思う。自分がコーディネーターとしての強みを出せるところは、都内を行き来していることなので、都内でも桐生のことを知ってみたいといった方の取っ掛かりを作り、関係人口を増やしていくなど、徐々に桐生へ足を踏み入れていただけるように取り組んでいきたい。

(市長)

結果を求めると自然と無理が出てしまうことが自分の経験でもあり、最終的な目的を達成するためのプロセスは色々あると思うため、様々なことを上手にベストミックスとさせて取り組んでいただければと思う。

観光で人を呼び寄せるのが特効薬であるとするば、移住については漢方薬のようなものであり、移住・定住まで結び付けるには非常に時間がかかる作業であると考えられる。皆さんと話し合いたいが、皆さんと話し合いたいが進めたい、その土台ができれば自然と自分たちが考えている以上に進んでいくと思うので、今後も協力をお願いしたい。

(市長)

皆が自然に集まってくる場づくりを考えていた。また、大変ありがたい。つなぎに関連して、来年度から「地域担当職員制度」として、各区へ職員1人を張り付け、地域の方々が抱えている課題や相談ごとを吸い上げ、その職員を通じて庁内の各担当部署へ伝えて解決していくという取組を予定している。地域間のつなぎの際には、この地域担当職員制度をぜひ活用していただきたい。



# 目指すべき方向性を示し

## 皆を同じ熱量でつなげる

(意見)

「人口減少対策に関する提言書」をまとめることから関わり、こういうものができたら良いということを皆で話し合った結果、この「むすびすむ桐生」ができたため良かったと思う反面、まだまだ広報が弱いと感じている。そのような中、今回オプザーバーである㈱ロフトワークとの関わりにより、周知の面やコミュニケーションタイプしていくものと期待しており、新たな自分たちの良いきっかけになる。また、皆の関わり方がため、方向性を指し示すことが熱量でつながっていくことが

移住・定住の相談も受けているが、皆お金持ちになりたくて桐生へ来ているのではなく、人間関係や周りにストレスなく自分らしく生きていけるところを求めている。好きな場所で好きな人たちに囲まれて暮らせるという意味では、桐生は大変住みやすいまちであると思う。例えば病気の時などは、周りの方々が適切な病院を親切に教えてくれる環境があるということに移住してきて感じ、都内ではない安心感があるということをもっと外へ伝えられれば良い。



人それぞれである

とにより、皆が同じ

できると思う。

(市長)

人やクリエイティブというキーワードが出てきたが、皆の関わり方がそれぞれであるため、オプザーバーの助けもいただきながら、移住・定住施策について色々と創造していただきたい。



(市長)

次に、「今後の移住・定住施策」について、説明をいただきたい。

(オプザーバーである  
㈱ロフトワークより  
「今後の移住・定住  
施策」について説明)

※資料参照



(山本理事より  
「今後の移住・定住  
施策」について説明)





# 桐生市の移住・定住促進に向けた方向性



(意見)  
桐生にはどのような可能性があると感じているか。

(オブザーバー)  
他の地域であるとして、まずこのような話し合いの場がないため、意識の高さを感じるということや、移住希望者と市内の人々との関わりが近く、一つのお店に訪れると次のお店を教えてくださいと、色々な方が交わり合っていると桐生ならではの魅力であり、面白いまちであると考えられる。

(意見)  
桐生に可能性はあることが確認できたため、あとは皆の感度を上げていければ良いと思う。

提案された移住につながる移住体験機会の創出においては、お試しとして商いをした時のお客が、いつかこの人が桐生にお店を出すということに期待することで先に顧客をつくるという仕組みができるという。そのような希望を持てるような仕組みを次のお試しで入れ替わった方にも受け継いでいけるのではないかと考える。



(意見)  
移住施策を考える今回のようなことに自分も関わるとは思っていないが、移住希望者の相談に乗って話を聞いてみるのは普通のことであり、次にどこかのお店を紹介するようなことは皆さん同じような感覚で当たり前のように行っているが、今回の資料のように可視化されると分かりやすい。

今後、このようなことをどのようにしていったらより効果的であるのかをアドバイスがいただきたい。皆で話していきたい。



(意見)  
移住希望者が長期滞在する場合はの仕事をどうするか。また、移住体験をしようと思わせるまでも中々難しいと思う。

## (オブザーバー)

いきなり移住・開業することは不安感があるため、住むことや仕事をしてみる体験ができると、その先自分で店を作ったり、借りたりすることがスムーズにできるため、またまとまった期間で、観光でも移住でもない間の移住体験のようなものを行うことが一つのポイントであると考えている。

移住希望者を交えた今回の現地プログラムの参加者からは、開業した際に成功するか不安であり、体験できる期間とチャレンジシヨップのような場があると良いという声があったため、そのような方を最後の一押しとして支援できればと思う。







**(意見)**

桐生駅の改札口横に「オーライ」というエキナカシェアショップがあり、桐生近郊利用者は増えているが、駅内という立地もあるため、県外の利用者も想定しており、県外向けにももっと周知をしていきたい。また、こちらの母体は市の指定管理を受けた「きりゅう市民活動推進ネットワーク」であり、社会活動の一環として行っているため、利用料は低く設定されている。桐生には、他にもココトモにシェアアッキンなどもあるが、これらに付け加えた方が良いポイントはあるか。

**(オブザーバー)**

チャレンジショップのみではなく、暮らしや商いのいずれもサポートしていくことが必要であると考える。

**(市長)**

桐生の抱えている課題として、新規起業・開業についてもそうであるが、大きな課題の一つが事業承継、第三者承継となっている。織物の例でいうと、お守り袋の全国シェア約8割を桐生が占めているとされているが、後継者不足で事業が継続できないことが心配されている。桐生では利益が出ているのに廃業してしまうというケースがあり、できれば移住希望者にもそのような桐生の状況を見てもらった上で第三者としての承継につなげるということも考えていただきたい。また、織物を後世に伝えるという中で、素材から製品まで全ての段階が桐生にあるため「総合産地」といわれているが、現状そこに無理が出てきているため、これから桐生の繊維を伸ばしていくためには、もしかしたら思い切って「総合産地」にこだわらない形についても検討する時期



なのかもしれない。色々な工程がある中でそれをこれまでどお全て成り立たせるといふことであると、誇りを持って仕事をすることができるといふことになってしまつたため、繊維のまち桐生の本来のこれからのあり方についても考えていかなければならないと感じている。

移住・定住についても従来のやり方だけではなく、新しいやり方・考え方の基で様々なことに積極的に取り組んでいきたい。今回のように、官民連携でお互い腹を割って話せる環境を作れるということについて大変感謝している。また、行政についても色々な意見を伝えていただければと思うので、今後とも協力をいただきたい。